

自分にできること

岩沼市立岩沼中学校

三年

遠西

礼都

私が住んでいる地域には山がありません。ハ  
ガドマップを見ると、土砂災害特別警戒区  
域として示されています。それにも関わら  
ず、土砂災害の防災について真剣に考えたこ  
とがありませんでした。

最近、テレビやニュースで、地震や洪水な  
どの災害が世界中で起こっているという報道  
をよく見かけます。その中でも、私が一番驚  
いたのはトルコ・シリア地震です。建物のほ  
とんどが崩壊、多くの人々が救出されてい  
る映像をテレビで見ている。自然災害とはとも  
恐ろしいものなのだと思えて感じました。

私自身は東日本大震災を経験しています。  
激しく揺れて、母に抱えられながら家の窓か  
ら外に逃げたことをうすうすと記憶していま  
す。自分が成長し、当時の様子を詳しく知る  
ことができるとなりました。その震災当

時の写真や映像を見て、率直に感じたのは、絶望です。家が流され、船が町の真ん中に横たわるなど想像以上の被害だったからです。絶望を感じるほどの災害は忘れてしまいたいところですが、震災の記憶を忘れない子どもたちや知らない世代に伝えることは大切なことだと思えます。

自分に何ができるのかを考えたところ、棚を固定したり、落ちそうなところに物を置かないようにしたりすることを考えました。家族と話し合い、地震が起こったことを想定して、家族の集合する場所を決めておくことなどは、自分たちでもできることです。

東日本大震災では、七くなるおた方の九十パーセント以上が津波に巻き込まれたからという話をどこかで聞いたことがあります。なぜそうなったしまったかという、自分なら大丈夫、ここまで津波は来ない、という誤った考えを持って、いた人が多かったからだと思います。

それはきつと土砂災害についても言えるの  
ではないでしょうか。

ニューヨークで、土砂災害の様子を見ました。が  
人間の身体の数倍以上もの岩が落ちて、川のように  
に泥が山から流水ていました。家屋にも土砂  
が流木込み、復旧が難しい状態でした。被  
災者は一生懸命に泥を掻き出してました。  
自分の家は大丈夫と考えず、自分たでき  
る防災を考えることが、まずは大事なのです。  
特に取り組んでおきたいのは、ハザードマ

「マをよく見ておくことです。ハザードマ  
マでは、どこどのよう災害が起こりやす  
いのかが詳しく分かります。安全な避難経路  
も示さ水ているので、いざという時に安全に  
避難する道筋を確認することが出来ます。

また、落ち着いて行動することも心掛けた  
いと思います。災害時には、警報や注意報が  
発令され、サイレンが鳴るので、サイレンが  
鳴ったかると言って慌ててひとりで避難した  
りせむた、落ち着いて周りを確認しながら避

難で来る次女帯を育んでおきたらと思ひます。  
 私が見た土砂災害のニュースでは、家に流  
 木や土砂が流木込りて、大きく破壊さ  
 ていました。その映像から土砂災害の恐ろし  
 さを実感し、土砂災害は人の命や家財を奪う  
 恐ろしい災害だと改めて知りました。土砂  
 災害は破壊力が大きく、速度も思ひのほか速  
 いものであるようです。なので、土砂災害が  
 起きてから行動しても手遅れなのです。自分  
 ぞ予測をして、被害に遭わないようにしなけ  
 ればなりません。そのためにも、情報を素早  
 く知ることが大切なことです。土砂災害は大  
 雨や地震の後で危険が高まります。なので、  
 大雨の際には雨の状況などに気をつけていこ  
 うと思ひます。素早く情報を得て、慌てずに  
 行動するだけでも、怪我をせずに避難でき  
 と私は思ひます。  
 そのためにも災害に備えて、土砂災害が起  
 きたときのために、ハザードマップを見て、  
 避難するときの情報を確認しておきたいと思

りました。ハガードマップを見るだけでなく  
実際に避難場所までの道のりを事前に一度通  
っておきたいものだと思います。そうすれば  
災害時には慌てずに避難できると気付いたか  
らです。

自分に出来る小さな防災を積み重ねていく  
ことが、命を守るためには何よりも大切なこ  
となのです。

災害は世界中で起きているます。自然災害を  
止めることはできません。でも、私たちの防

災意識を高めるだけで、被害を最小限に近づ  
けていくことはできるはず。繰り返しに  
なりますが、そのためには自分でやる防災  
に取り組んでいく必要があります。防災に対  
して高い意識をもつて私たちは生活してい  
なければなりません。